

令和3年度 昭島市立共成小学校 学校経営方針

令和3年4月
校長 森本 弘子

1 基本理念

教育の目的は、人格の形成にあります。特に小学校の6年間は、人として生きる価値観が宿る大切な時期です。これからの時代に生きる子ども達は、無限の可能性をもっています。子ども達一人一人に、人としてより良く生きていく力を付けさせたいと考えます。

そのために、私たちは教育者としての自信と誇りをもって、全教職員で心をついに、同じ目的に向かって共成小学校の教育活動を進めていきましょう。

心と体の健康 安全 人権

学校は、子どもの尊い命と無限の可能性を預かっています。子ども達が安心して自己実現を目指せる所でなければなりません。この3つは学校として大切にしなければならない大原則です。この3つが保障されている場でこそ、子ども達の学び、成長があります。「できた！ わかった！」という「学ぶ喜び」、豊かなかかわりの中で「つながる喜び」をたっぷりと味わわせ、「生きる力」を子ども達一人一人に育てていきましょう。

【生きる力】 変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健

康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切です

- 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力 など

【昭島市学校教育の目標】

市民憲章と人間尊重の精神を基盤とし、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童・生徒を育成する。また、学校・家庭・地域の密接な連携の下、ふるさと昭島の自然や文化を愛し、社会に主体的に貢献できる「たくましい昭島っ子」の育成を目指す。

学んで楽しい学校 教えて楽しい学校

2 学校経営方針の概要

学校経営のキーワード

言葉の力で やさしく笑顔あふれる共成小

「めあて」「見通し」「振り返り」のある授業

「あいさつ」「返事」「アイコンタクト」が心をつなぐ

学習指導も、生活指導も、言語化して考えや思いを深めること、言葉で伝え合うことを基に、子ども達の力を伸ばしていきましょう。

子ども達自身が自己の成長を言語化できる場面をめざして、教職員から言葉をかけていきましょう。

「言葉の力」で子ども達の学校生活を充実させ、「やさしく笑顔あふれる共成小」をつくりま

めざす学校像

共に成し遂げる過程で「ありがとう」が生まれる学校

児童が自他を尊重し、「やさしさ」を感じる学校

児童が課題を解決する過程で、「学びがい」を感じる学校

児童が心と体の健康に関心をもち、「元気」を感じる学校

「めざす学校像」の実現に向けて取り組むことを学校経営の基本方針とする。

教育目標等とのかかわり

市教委方針	本校教育目標	めざす学校像	期待する児童の姿	期待する教職員の姿	家庭・地域の協力
確かな学力の定着	【重点目標】 考える子	児童が課題を解決する過程で、「学びがい」を感じる学校	思いや考えを共有し、学び合い、認め合う姿	一人一人の児童にとって魅力ある授業づくりに努め、変容を見出す姿	学習の場づくり、環境づくりへの協力
豊かな心の醸成	助け合う子	児童が自他を尊重し、「やさしさ」を感じる学校	誰かのために自分ができることを考え実行する姿	児童の言動から心情や意図を理解しようとし、関係付け、価値付ける姿	あいさつの励行、対話や体験の時間と場づくりへの協力
健やかな体の育成	きたえる子	児童が心と体の健康に関心をもち、「元気」を感じる学校	自他の体を大切にし、声を掛け合い一緒に運動する姿 互いに支え合う姿	児童の健康を最優先に考え、心と体が元気になるよう関わりをもつ姿	免疫力向上に向け、規則正しい生活リズム、早寝・早起き・朝ごはんや運動の機会作りへの協力
輝く未来に向かって		共に成し遂げる過程で「ありがとう」が生まれる学校	目標をもって粘り強く取り組む姿 「ありがとう」を見付け伝え合う姿	多様な立場の人と目標を共有して協働する姿 感謝を伝える姿	家庭・地域での役割と感謝の場づくり、大人同士のつながりへの協力

3 学校経営にかかわる基本的な考え方

(1) 学校の役割の重点

学校は、施設、建物として存在します。そこは、人が通い合う場です。共成小に通い合う人々の「心が通い合う」ための場になることを願って学校づくりを進めます。

学校の役割として、次の3点を重点とします。

- ① 子ども達の今を充実させるために「**今日が楽しく明日が待たれる**」
 - ア 課題解決の過程の充実感・目標をもって成し遂げる達成感
 - イ 安心して楽しく通える学校と学校にかかわる人を愛する心
- ② 子ども達の豊かな人生のために「**未来に役立つ、希望をもつ**」
 - ア 自己を磨き、自己と同様に他者も大切にす精神
 - イ 生涯にわたって学び続け、社会の中で成果を生かそうとする態度
- ③ 子ども達と共に生きる人々の幸福のために「**共成小に関わられてよかった!**」
 - ア 大人とかかわり、学び、感じる姿勢
 - イ みんなが目標を共有し、通いたい場

(2) 法令の遵守

- ① 「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」を育む。【学習指導要領の理念から】
- ② 新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導を充実させる。

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現を図るとともに、指導と評価の一体化を目指す。
- ② 教科等横断的な視点からカリキュラム・マネジメントを効果的に行う。
- ③ 社会に開かれた教育課程を実現する。

- ③ 学力の重要な3つの要素を踏まえた指導を充実させる。【学校教育法から】

- ① 基礎的な知識・技能を身に付けさせる。
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育む。
- ③ 学習に取り組む意欲や態度を養う。

- ④ 服務規律の徹底を図る。

(3) 昭島市立学校としての自覚

「第2次昭島市教育振興基本計画」に基づく教育を推進する。

- ① 昭島市教育委員会「学校教育の基本方針」より
 - ・ 確かな学力の定着
 - ・ 豊かな心の醸成
 - ・ 健やかな体の育成
 - ・ 輝く未来に向かって
- ② 各プランを踏まえた取組の実施
 - ア 系統的・計画的な授業改善の組織的な推進及び家庭学習への支援
 - イ いじめ防止の取組の推進等による児童も保護者も安心できる学校づくり
 - ウ 望ましい運動習慣、生活・食習慣の指導による体力向上と健康推進
 - エ 中学校、家庭・地域と連携した教育の充実
 - オ 個に応じた支援の充実
 - ・・・等

4 共成小学校の教育目標

人権尊重の精神を基調として心身共に健康な児童の育成を目指し、自他の大切さを認め、人権課題について学び、権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童の未来に生きて働く力を培うため、主体的・対話的で深い学びを通して、基礎的な知識や技能を習得し、これらを活用できる思考力・判断力・表現力を養い、新たな課題を解決する児童の育成を目指して、次のように教育目標を定める。

・ 助け合う子

○ 考える子【重点目標】

・ きたえる子

5 学校経営方針と指導の重点

目指す学校像

- ・ 児童が課題を解決する過程で、「学びがい」を感じる学校
- ・ 児童が自他を尊重し、「やさしさ」を感じる学校
- ・ 児童が心と体の健康に関心をもち、「元気」を感じる学校
- ・ 共に成し遂げる過程で、「ありがとう」が生まれる学校

教育目標及び学校経営にかかわる基本的な考え方等を踏まえ、今年度の学校経営方針を次のとおりとする。

児童が課題を解決する過程で、「学びがい」を感じる学校

(1) 児童が自ら考え、活躍することができる、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。

どんな文脈で学ぶかが、学び取られた知識の質を決する

① 「めあて」「見通し」「振り返り」のある授業を展開する。

➡ 主体的に学習に取り組む態度を育む。

ア 板書を工夫し、いつでも、どこからでも学習のゴール、道筋、手だてが分かるようにする。

また、ノート指導を工夫し、児童にも、単元・時間の学習過程を意識させる。

イ 以前に学習したことなど、児童のもつ知識や経験を活用できるよう学習課題や学習内容を工夫して授業計画を立てる。課題解決的に学習する態度や能力を育てる。

ウ 学習の振り返りの視点と言葉を豊かにする。学んだ内容とともに、付けたい力や態度、方法を振り返ることができるようにし、次につなげる態度を育てる。

② 他者から学ぶこと、他者に役立つことによさに気付くことができる授業を展開する。

➡ 思考力・判断力・表現力等を伸長しながら、協働的に学びを深める態度を育てる。

ア 相手意識や目的意識を明確にして、伝え合い、認め合う活動を設定する。その際、自分と違う考えのよさを見付けたり、活用したりすることができるようにする。

イ 言語活動を、付けたい力と課題解決的な学習過程への位置付けを明確にして設定する。教科等の特性や学習課題に応じた話し合い活動、書(描)いて考える活動、情報を収集し分析する活動等により、探究的に学ぶ態度を育てる。

ウ 考えを共有する場面を設定する。分類・比較・類推等の思考、気付き、感想等を視覚化・言

語化して深化・整理する学び方を段階的に工夫する。その際、学習ノートを効果的に活用し、学習の積み上げと活用を促す。

エ 学校図書館を積極的・計画的に活用し、教科等の学習計画と関連付けた読書活動を推進する。感想を深めながら読む、考えを形成しながら読む、情報を活用するために読む等、活動の目的を明確にする。また、I C T機器を効果的に活用する能力を育てる。

③ すべての児童が活躍できる、「学ぶ喜び」（「できた」「分かった」「もっとやりたい」）を実感できる授業づくりに取り組む。

➡ 活用できる・したくなる知識・技能の習得を図る。

ア 学習指導と学習評価のP D C Aサイクルを意識し、丁寧な机間指導を計画的に行い、指導と評価の一体化及び個に応じた指導の充実を図る。

イ 評価において、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を大切にし、良い点やつまずきを適時に伝えながら指導・支援する。

ウ 組織的に児童理解を深め、スモールステップで目標を設定し、指導・評価計画を立てる。変容をとらえやすくし、支援を細やかに行う場面をつくる。児童自身による自己評価・相互評価も同様に行う。

エ ユニバーサルデザインを取り入れ、様々な視点から、分かりやすい指導や過ごしやすい環境づくりを推進する。指導者が、多様な相手の立場に立って考え、取り組む。

④ 授業と関連付けて、家庭学習の指導を継続的に行う。

➡ 児童自ら望ましい学習習慣を身に付けようとする。

ア 自ら計画的に学ぶ習慣が身に付いた児童を育てるよう、家庭との連携を図る。

イ 学級で、授業に役立つよう意識させた家庭学習の進め方について指導する。

例えば、「できた」「分かった」ことを繰り返し練習する、活用してみる、何が「できない」「分からない」のかを明らかにする、できるように情報を増やすことなどを意識して、予習や復習に取り組む。

ウ 家庭学習週間等の機会に、「家庭連携スタンダード」を踏まえ、保護者の役割や児童の取組方法について啓発し、家庭との連携を図る。また、土曜スクールや放課後スクールの活用を促す。

児童が自他を尊重し、「やさしさ」を感じる学校

(2) 児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。

① 自分も相手も大切にする気持ちや考えを言葉で伝え合う場面をつくり、自己肯定感や自己有用感を育む。

ア 「あいさつ」「返事」「アイコンタクト」が心をつなぐことを継続的に指導し、場に応じてよりよいあいさつを考え、実践できる児童を育てる。

イ 児童相互によいところや頑張ったこと等を言葉で伝える機会をつくり、「やさしい言葉」を豊かにする。また、言語環境の整備に取り組み、児童の言語感覚を磨く。

ウ 児童の話をよく聞き、自己理解と自己受容を促すとともに、自己決定と実践を大切に指導する。

エ 目標や評価の可視化、スモールステップでの指導等を工夫し、児童自身が「自分のできるこ

と」を考え、実行し、自己や相手の変容を感じることができるよう支援する。

- ② 「いじめ問題」はいつでもどの子にも発生し得るという認識に立ち、未然防止と早期発見・対応に努める。

ア 「いじめは絶対に許さない」という毅然とした指導を行うとともに、いじめにつながりかねない行為や発言等を適切に取り上げて、児童に考えさせる指導を行う。

イ 児童自身が「いじめとは何か」を考え、自分たちにできることを話し合い、いじめ防止を意識した実践的な活動に主体的に取り組む指導を行う。

- ③ 小さな問題にも気付けるよう児童理解に努め、組織的・継続的に観察・指導する。

ア 児童一人一人のニーズに応じた教育的支援を適切に実施するため、日頃から校内はもとより、関係機関との連携を図り、「チームとしての学校」づくりを推進する。

イ 生活指導部会や学年会、毎週の生活指導連絡会等の機会を生かして、組織的に児童の情報や指導・支援内容を共有し、適時に相談する。さらに、保護者・地域との連携を十分に図る。

ウ 児童からのサインに気付くことができるよう、意図的に声を掛けて反応を見る、気になることを言葉や態度に表す機会をつくるなど、かかわる機会をつくる。また、児童自身にも、相談すること、SOSを出すことを学ぶ機会をつくる。

- ④ 特別の教科 道徳の時間の充実を図り、「考え、議論する道徳」を実施する。

ア 教科書の適正な使用とともに国や都の資料を活用し、問題解決的な学習、主体的・対話的で深い学びの充実を努める。

イ 全教員が協力して指導及び評価の改善に取り組み、道徳教育に関する諸計画を確実に実施し、教育活動全体において生かされるよう児童の道徳性を養う。

児童が心と体の健康に関心をもち、「元気」を感じる学校

- (3) 児童が自分の健康に関心をもち、心と体について知り、新しい生活様式による感染症防止や免疫力の向上等の健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣について考え実践する態度を育む。

- ① 体力向上週間、体力テスト、体育授業における継続的な取組等、運動する機会づくりを進め、児童自身が成果を実感できるよう指導する。

ア 友達等と一緒に運動する楽しさを経験させ、誘い合って共に運動する態度を育む。

イ 運動と健康について理解を深め、共に目標に向かって助け合ったり、成果を認め合ったりして運動することができるよう指導する。

ウ 「元気アップガイドブック」の活用を継続し、取組目標や成果を視覚化して、主体的に取り組む態度を育む。体育の授業とも関連付け、習慣化が成果の自覚に結び付くようにする。

- ② 食と健康について理解を深め、関係機関や家庭と連携して、食習慣について実践的な態度を育む。

ア 年間指導計画を踏まえ、目標と実践との結び付きを明確にして指導に取り組む。給食の時間はもとより、各教科等の学習と関連を図り、食育を日常的に推進する。

イ 「グッドモーニング60分」の取組を全校で着実にを行い、実践的に生活習慣の改善を意識化する。家庭でも目標をもって取り組めるよう資料を活用して連携を図る。

- ③ 自分の心の健康づくりに関心をもち、理解を深めるとともに、他者の心も大切にす意識や態度を育む。

- ア スクールカウンセラー等と連携し、児童自身が心のもち方や他者とのかかわり方を振り返ったり、学んだりする機会をつくる。
- イ 児童が自ら相談しやすくなるよう人間関係づくりや雰囲気づくりに努める。
- ウ 児童が感染症防止や免疫力の向上等の健康の保持・増進に関する意識、感染症等に関する差別をなくす意識を高める指導に取り組む。

共に成し遂げる過程で、「ありがとう」が生まれる学校

(4) 目標をもって粘り強く取り組む態度を育み、人とのかかわりを大切にした豊かな人間性やコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。

- ① 一人一人の児童の自己肯定感や自己有用感を育む機会を設定する。
 - ア 自己の成長と他者の支援、他者の成果と自己の取組を結び付け、目標設定や評価の場面を設定する。その過程で、感謝の気持ちや自分が誰かの役に立っているという実感をもたせ、自己有用感を育む。
 - イ 学校での様々な集団活動を大切にし、児童の発達段階に応じた課題解決に向けて、児童相互に様々な面を生かし合い、取組意欲の向上を図り、活躍の場が広がるようにし、自己肯定感を育む。
 - ウ 保護者や地域、関係機関等の人材の活用を図り、多様な活動や評価場面の設定に努める。また、理解・協力を得て連携を図り、目的を共有して児童の成長に関われるよう、児童の姿を通じた広報の充実を図り、啓発に努める。
- ② 福島中学校、玉川小学校との連携を図り、小中一貫教育を推進する。
 - ア 学習スタンダード、生活スタンダード、家庭連携スタンダードを活用し、小中学校の教職員、地域の人材等との連携を一層密にする。
 - イ 指導内容や指導方法の相互理解、児童・生徒理解を促進し、情報連携とともに行動連携を図るよう努める。
- ③ 児童の目的意識や相手意識を大切にしながら、様々な立場の人と共に協働して取り組むことや認め合うことのよさを感じる機会をつくる。
 - ア 様々な活動場面で、児童自身が自分を生かすこと、できることを考え、行動する意欲をもつことができるよう指導・支援する。
 - イ 集団活動等におけるリーダー、フォロワーの立場を理解できるようにし、自己や他者の行動や思いを見つめたり、個性を生かし合ったりする機会を設定する。
 - ウ 特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習を効果的に進め、相互に理解し認め合い、協力する心や態度を養う。
- ④ 自己の将来や生き方について考えさせる指導を行う。
 - ア 基礎的・汎用的能力である「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の伸長を図る。
 - イ 自分の得意なことについて考えること、目標をもつことの意義をとらえさせ、将来について考える機会を設定する。

6 共成小学校の教職員としての姿勢

児童や保護者から、地域や他校から信頼される学校であるためには、まず、学校として、教職員として、当たり前のことを当たり前に行っていくことが第一です。

教職員として最も重要で最も日常的な市民サービスは、「児童（及びその周囲の方）の成長と幸福」であると考えます。この共通の目標のために、私たち教職員は努力を惜しみません。誰の、どの仕事も、どのかかわりも、すべてが児童の成長と安全・安心に確かにつながっています。「チーム共成小」は、一人一人の児童、市民を大切にできる教職員集団です。教職員がどんなことでも児童の話題を出し合い、チームメイトの役割と取組、その意図の理解に努め、共に取り組み成し遂げる姿勢と覚悟をもちたいものです。

また、私たち自身も自分の人生を歩んでおり、笑顔で充実した毎日を過ごし、自己実現を図りたいと願う存在です。

教職員も、児童も、保護者も、地域も「共成小大好き」と思える学校をつくっていきましょう。

(1) 大人が手本の共成小

- ① 児童に「きまりを守れ」と胸を張って指導することができるよう、自らきまりを守る。
- ② 教職員の言葉こそ、最大の言語環境となることを意識する。
- ③ 相手の立場に立って、理解に努める。
- ④ 物を大切に扱い、よりよい環境づくりに努める。物や環境を介して人を大切にする。

(2) 研究・研修は厳しく、人間関係は温かく

- ① 教職員相互に学び合う機会、相談する機会を充実させる。
- ② 教職員が互いの取組に関心を持ち、認め合う言葉をかけ、生かし合う。
- ③ 「児童・生徒のために」という共通の目的意識を持ち、方策を追究して協働し、成果と課題を共有する。
- ④ 自ら目的を持ち、常に学び続け、職務に生かすよう努める。

(3) 服務の厳正

- ① 思いや考えを話し合える教職員相互の雰囲気継続する。
- ② 学校の個人情報、児童と保護者等のものであり、厳正に扱う。
- ③ 暴力・暴言は、再生産されるものと肝に銘じ、心の通う指導に努める。
- ④ 公正な財務管理を行い、予算を有効に、適正に活用する。

(4) 子どもを愛し、子どもにかかわる人を大切に

- ① 優しい笑顔、温かい言葉で愛情を伝え、児童の心の拠り所になれるよう努める。
- ② 常に児童の様子を見取り、サインに気付くことができるようにする。
- ③ 保護者も地域の方も、子どもを大切に思う気持ちは同じと自覚し、共に歩む心をもって接する。
- ④ こまめに家庭や地域等との連絡を取り、共に育て、対応する。